

たねニュース

平成30年(2018年)1月1日発行(隔月1回1日発行)

- 新年ご挨拶
- 北海道向けサイレージ用トウモロコシ耐倒伏性品種の紹介
- 東南アジア酪農のトピックス
- 第69回日本酪農研究会 札幌市にて開催
- 道東支店より新年のご挨拶 ●道央支店より新年のご挨拶

謹賀新年

平成30年の新春を迎え、皆様におかれましては穏やかな新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。また日頃より弊社事業につきましては特段のご理解とご支援を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、日本の酪農・畜産業界を取り巻く環境は、TPP(環太平洋パートナーシップ協定)がアメリカ合衆国の離脱により迷走する中、関心は日欧EPA交渉とアメリカ合衆国との2国間交渉に向けられており、今後の展開を注視する必要があると思っております。

この様な背景を鑑みますと、国の畜産クラスター事業を中心とした、畜産・酪農への積極的な補助対策が必要と感じますが、世界の穀物生産状況や為替相場により依然として配合飼料価格は高めに推移し、酪農畜産生産者の後継者不足や労働力不足の問題が顕著化する等、各種の課題を抱えている現状にあります。

また平成29年は、一昨年の台風災害の復興作業の中で、9月に台風18号が北海道を縦走し、飼料作物を中心に各地で大きな被害が発生しました。被害に遭われた方には心よりお見舞い申し上げますとともに、災害復興に向け生産者並びに関係者の方々のご尽力に心より敬意を表します。

新年となりました平成30年は、冬季オリンピックやサッカーワールドカップなどスポーツの祭典がありますが、北海道命名150年を迎える年でもあります。改めて開拓の辛苦に立ち向かった先人に感謝せずにいられません。

弊社は創業者である黒澤西蔵翁が提唱した「健土健民」を理想とし、「技術と誠意で農業奉公」を社是とし、昭和25年に創業以来一貫として資源循環型農業を推進して参りました。持続可能な酪農・畜産経営とは、「土・草・牛」の循環を通じ、自然環境と調和をとりながら円滑に資源を循環させるということです。地域環境に適した自給飼料の増産と有効活用により、草地管理技術、飼養管理技術の向上を進めると共に、これからも酪農と畜産の振興と地域の活性化に貢献したいと考えております。

本年も長年に亘って培ってきた技術やノウハウを活かし、雪印メグミルクグループの一員として、酪農・畜産の生産現場に密着した商品と技術を取り揃え、皆様のご用命をお待ちしております。

今後とも、皆様のご健勝と益々のご繁栄を心からご祈念申し上げます、ご挨拶と致します。

平成30年元旦

雪印種苗株式会社
代表取締役社長 赤石 真人